

竹パウダー活用実験開始

竹林の利活用に取り組み薩摩川内市祁答院町の黒木地区で、モウソウチクの青竹を粉碎し発酵させた「竹パウダー」の実証実験が始まった。始良市の会社がパウダーを無償提供。5月下旬から約1年間、7農家が土壌改良材や飼料として使い、効果を検証する。

土壌改良や飼料に

薩摩川内・黒木地区



植え付け前のサツマイモ畑に竹パウダーを散布する実証実験参加者
■薩摩川内市祁答院町黒木

物野菜などの3組のほか、下村さんも稲作を行いデータを取る。効果を確認できれば、黒木地区でのパウダー生産を検討する。下村さんは「パウダー消費の間口を広げ、竹の有効活用につなげたい」と話している。

(田畑沙織)

始良の企業、無償提供

竹パウダーは四国などで普及しているが、鹿児島県内での利用例は限られる。竹林面積

全国一の県で広がれば、放置竹林解消にもつながる。

竹には乳酸菌やアミノ酸が豊富に含まれ、粉碎してすぐ密閉し発酵させることで乳酸菌が増える。飼料に混ぜれば家畜の腸内環境や肉質の改善が期待できる。粒子が細かく家畜の口や内臓を傷つける心配もないという。植え付け前の畑にすぎ込めば微生物の増殖を

促し土が柔らかくなる。

パウダーを提供する国元商会(本社・大阪)は建設資材の製造販売が本業で、2016年から始良市蒲生の工場で竹パウダーを製造している。これまでも単発の実証実験はしていたが、年間通じては初めて。工場長代理の野村政裕さん(40)は「効果は確信しているが、県内での普及が課題だった。多くの人に良さを知ってもらえれば」と話す。

黒木で竹活用に取り